

流域治水協議会

7)流域治水プロジェクト2.0取組事例紹介

7)－1 力を入れている取組等

7)－2 流域治水推進の取り組み

7)ー1 力を入れている取組等

- 久留米市…p.3
- 筑後市 …p.12
- 小郡市 …p.13
- 朝倉市 …p.14
- 大刀洗町…p.15
- 大木町 …p.16
- 佐賀市…p.17
- 広川町…p.18
- 鳥栖市…p.19
- 神埼市…p.21
- 大分県…p.23

【力を入れている取組等】

○実施主体：国土交通省・福岡県・久留米市

○開始時期：平成30～令和7年度

○実施内容：排水機場のポンプ増設、調節池の整備、放水路・排水機場の整備、雨水幹線の整備、護岸嵩上げ、逆流防止ゲート・ゲートポンプの設置、ソフト対策

①取組を始める経緯、きっかけ

平成30年7月豪雨及び令和元年7月、8月の大雨により多大な浸水被害を受け、国・県・市の関係部署が連携し、浸水被害軽減に効果的なハード・ソフト対策を集中的に実施し、早期に地域の安全性の向上を図ることとなった。

②取り組みに対する課題、解決した場合
解決方法・きっかけ

今後、気候変動による災害の激甚化が懸念されており、あらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり、流域における貯留・浸透機能の向上等が必要である。

③現在の取組状況



金丸5号雨水幹線
延長 約600m
管径 $\phi 800 \sim 1200$
ポンプ $1 \text{ m}^3/\text{s}$



逆流防止ゲート
金丸川の水位が上昇したときに、居住地への逆流を防止する

現在、放水路及び排水機場（県施工）と放水路に接続する雨水幹線（市施工）の工事を実施中。

【力を入れている取組等】

○実施主体：国土交通省・福岡県・久留米市

○開始時期：平成30～令和7年度

○実施内容：排水機場のポンプ増設、流域貯留施設の整備、護岸嵩上げ、逆流防止ゲートの設置、ソフト対策

①取組を始める経緯、きっかけ

平成30年7月豪雨及び令和元年7月、8月の大雨により多大な浸水被害を受け、国・県・市の関係部署が連携し、浸水被害軽減に効果的なハード・ソフト対策を集中的に実施し、早期に地域の安全性の向上を図ることとなった。

②取り組みに対する課題、解決した場合
解決方法・きっかけ

今後、気候変動による災害の激甚化が懸念されており、あらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり、流域における貯留・浸透機能の向上等が必要である。

③現在の取組状況



久留米大学雨水貯留施設
貯留容量 21,800^m³
(25mプール約50杯分)
下流の水位が下がってから、
自然流下で放流する。



御幣島公園雨水貯留施設
貯留容量 4,800^m³
(25mプール約10杯分)
下流の水位が下がってから、
ポンプ排水で放流する。

ハード対策は実施済み。引き続き、施設の運用やソフト対策を実施する。

○実施主体:国土交通省・福岡県・久留米市

○開始時期:平成30年度～令和9年度(予定)

○実施内容:貯留施設の整備、護岸かさ上げ、水門設置、逆流防止ゲートの設置などのハード対策と堰板の改良(用水調節器の設置)、田んぼダム、水位標設置などのソフト対策

①取組を始める経緯、きっかけ

平成30年7月豪雨、令和元年7月、8月の大雨及び令和2年7月豪雨により多大な浸水被害を受け、国・県・市の関係部署が連携し、浸水被害軽減に効果的なハード・ソフト対策を集中的に実施し、早期に地域の安全性の向上を図ることとなった。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

今後、気候変動による災害の激甚化が懸念されており、あらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり、流域における貯留・浸透機能の向上等が必要である。

③現在の取組状況



貯留施設の整備



堰板の改良



水位標設置

これまでに、貯留施設の整備、堰板の改良、水位標設置、田んぼダム等を実施
今後、護岸かさ上げ、水門設置、逆流防止ゲートの設置等を実施予定

- 実施主体:久留米市
- 開始時期:令和5年度～
- 実施内容:護岸嵩上げ、幹線排水路改良、排水施設整備の検討

①取組を始める経緯、きっかけ

平成30年7月豪雨以降、JR田主丸駅周辺は大雨による浸水被害が発生しており、令和4年2月「久留米市流域治水推進プロジェクト」設置後、浸水被害軽減に効果的な対策を検討し、早期に地域の安全性の向上を図ることとなった。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

今後、気候変動による災害の激甚化が懸念されており、あらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり、流域における貯留・浸透機能の向上等が必要である。

③現在の取組状況



- 実施主体: 久留米市
- 開始時期: 令和3年度より継続実施
- 実施内容: 市管理河川における浚渫作業

①取組を始める経緯、きっかけ

近年の集中豪雨により市内の冠水等の被害が増加しているため、河川の流下能力向上を目的として、河川内土砂を浚渫する。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

近年、集中豪雨の頻発化により、河川内の土砂堆積量が増加しているため、対策後も定期的に浚渫の実施が必要である。

③現在の取組状況

浚渫前



浚渫後



これまで令和3～5年度に久留米市内の12河川（準用河川及び普通河川）の浚渫を実施完了

令和6年度は5河川（準用河川及び普通河川）の浚渫を実施予定

- 実施主体: 久留米市
- 開始時期: 令和5年度から継続実施中
- 実施内容: 学校施設を活用した大雨時のプールの先行排水

①取組を始める経緯、きっかけ

公共施設の一つである学校施設を活用し、大雨時にプールを先行排水することで貯留機能の増強を図る。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

梅雨時期はプール授業の期間中であり常時満水となっているため、天気予測など防災部局との連携を密に行うことで、効果的な先行排水に努めた。

③現在の取組状況



取組効果：市内小中学校32校（最大5,000m³）

取組実績：令和6年6月27日（木）に先行排水を実施
※令和5年7月の大雨時にも実施

- 実施主体: 久留米市
- 開始時期: 令和4年度から令和5年度末(令和6年出水期から稼働開始)
- 実施内容: 篠山排水ポンプ場のNo.3ポンプ増設

①取組を始める経緯、きっかけ

筒川排水区では、近年の集中豪雨により甚大な内水浸水被害が発生している。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

浸水対策として下流にある篠山排水ポンプ場の排水ポンプを増設し、浸水被害の軽減を図るもの。

③現在の取組状況



- 3号排水ポンプ増設工事
排水能力：28m³⇒34m³

- 工事進捗
令和5年度完了（排水能力28m³⇒34m³）
令和6年度出水期から本格稼働

- 実施主体:福岡県 久留米市
- 開始時期:令和3年度より継続実施
- 実施内容:農業用水クリークにおける浚渫作業

①取組を始める経緯、きっかけ

国・県・水資源機構・関係する市町7市1町・土地改良区で連携してクリークの先行排水の広域化に取り組んでおり、クリークの貯水ポケットの確保を図るため。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

特になし

③現在の取組状況



■実施状況

令和3年度	L=1,734m	V=14,748m ³
令和4年度	L=2,833m	V=21,513m ³
令和5年度	L=2,638m	V=12,110m ³
令和6年度	施行中	

田んぼダムの取組

様式 1 - 2 : 流域治水
【力を入れている取組等】

- 実施主体:福岡県 久留米市
- 開始時期:令和4年度より継続実施
- 実施内容:田んぼダム管理及び普及啓発業務委託

①取組を始める経緯、きっかけ

令和3年度から多面的機能支払交付金事業に、田んぼダムの取組に対する支援措置が設けられたことや流域治水の観点から水田を活用した防災・減災の対策が求められているため。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

営農に支障が出るのではないかとという不安や、事務の負担が生じることなどの理由で実施を見送る組織がある。
当初は、多面的機能支払交付金活動団体と業務委託契約を行っていたが、実施場所を増やすため、令和5年度からは、2人以上の任意団体とも契約を行っている。

③現在の取組状況



■取組面積

令和4年度	5地区	41.2ha
令和5年度	21地区	199.1ha
令和6年度	32地区	269.0ha

- 実施主体:筑後市
- 開始時期:令和5年6月～
- 実施内容:筑後市流域治水プロジェクト推進会議及び検討部会の設置、推進計画の策定等

①取組を始める経緯、きっかけ

流域治水を進めるためには、各部署が流域治水の更なる推進に向けた施策の検討を行う必要があるが、これまでの間、ハード整備を中心とした治水対策のみであったこともあり、流域治水への意識は高まっておらず、総合的・多層的な対策を展開できる体制とは言い難い。

また、大雨予測時における関係部署間の取り組みについて、横断的な情報共有が不十分であった。

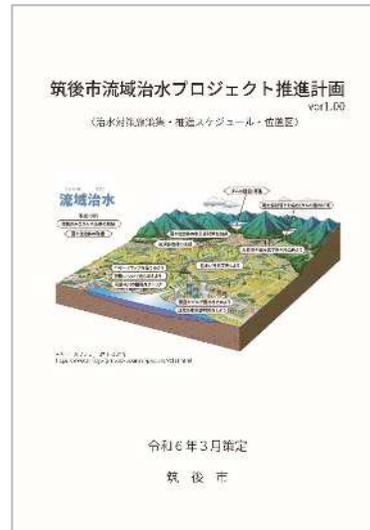
②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

筑後川及び矢部川「流域治水プロジェクト」の計画に本市が位置づける個別施策の検討に加え、流域治水の更なる推進に向けた施策の検討等を行うことを目的に「筑後市流域治水プロジェクト推進会議」を設置。

また、下部組織に検討部会を設置し、具体的な施策の調査・検討及び大雨予測時の情報共有等を行う。

- ①本市の対策の全体像が明らかになり、計画的に対策を推進
- ②総合的・多層的な対策を展開する体制が強化
- ③庁内の横断的な情報共有・情報集約する体制が強化

③現在の取組状況



市ホームページ公開→

←「筑後市流域治水プロジェクト推進計画」(R6.3月策定)

内容(施策)の一部→

※大雨予報時には「情報共有会議」を開催

ほか、職員対象に「流域治水の取り組み」をテーマに行政課題周知研修を実施。流域治水の基礎知識や流域治水プロジェクトの治水対策の事例と効果を学び、流域治水の知識や理解の深化を図った。

「筑後市流域治水プロジェクト推進計画」

URL https://www.city.chikugo.lg.jp/shimin/_6112/_3879/_30163.html

○実施主体：小郡市

○開始時期：R6年度～

○実施内容：雨水ポンプ施設を新設することで、築地川流域の浸水被害軽減を図る

①取組を始める経緯、きっかけ

【浸水被害状況】

	総降水量	床上浸水	床下浸水	備考
H30.7	449mm (43h)	69戸	342戸	端間観測 水位第1位
R1.7	373mm (45h)	58戸	212戸	1時間 既往最大 86mm/h
R3.8	878mm (86h)	3戸	57戸	総降水量 既往最大
R5.7	450mm (56h)	16戸	62戸	端間観測 水位第3位

【R5.7豪雨】

〈初〉排水ポンプ車配備(国・県)

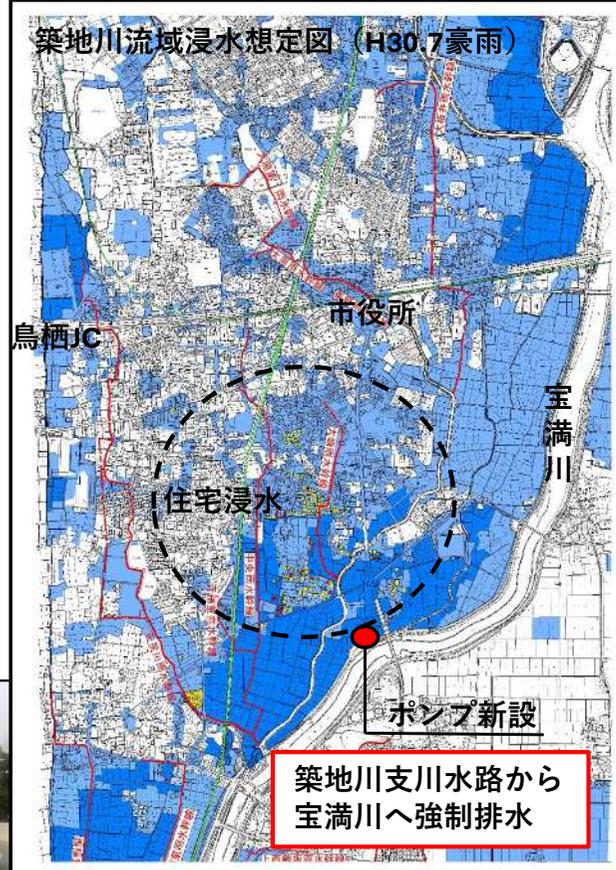


ポンプ車による効果が確認できた

大崎地区住宅浸水状況



②現在の取組状況



《総合的な治水対策を推進》
ポンプ整備事業の他にも、
堰の事前倒伏、ため池の先行
排水、公共施設を活用したオ
ンサイト貯留などを取組み中

《事業スケジュール》

	固定式ポンプ	半固定式ポンプ
R 6	設計業務委託	ポンプ購入
R 7	工事	稼働開始
R 8	稼働開始	



- 実施主体:朝倉市
- 開始時期:令和6年4月1日
- 実施内容:朝倉市立地適正化計画に基づく届出制度等

①取組を始める経緯、きっかけ

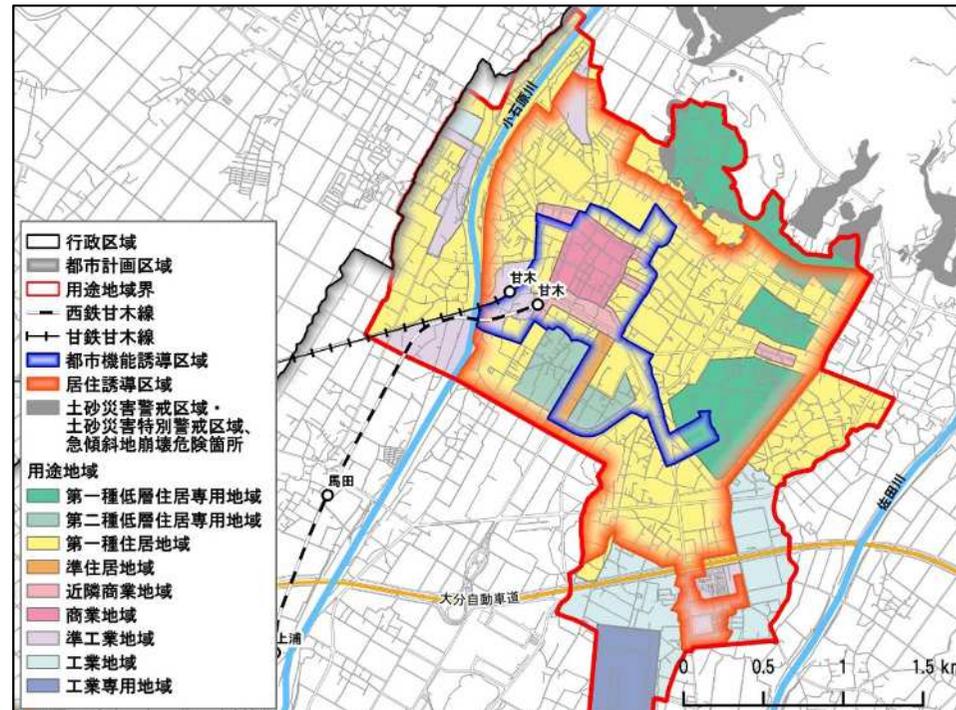
今後の人口減少に対応したコンパクトなまちづくりの実現に向け、居住地域や商業、医療等の生活サービス施設がまとまって立地するように緩やかに誘導を図るため。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

国のガイドラインに沿い居住誘導区域を設定するにあたり、既存の市街地部分に一部浸水想定区域（概ね50cm以内）が含まれるため、周辺エリアへの避難呼びかけや、避難機能の維持が課題となっている。

③現在の取組状況

令和6年4月に施行し、設定した誘導区域外への都市機能及び居住について、届出制度を運用中。今後は具体的な誘導施策等について検討を進めていく。



- 実施主体: 大刀洗町
- 開始時期: 令和5年～
- 実施内容: 床島地区への排水ポンプ設置

①取組を始める経緯、きっかけ

床島地区は、佐田川、旧長田川、床島用水の堤防に囲まれ、大雨により周りの河川水位が上昇した際は、河川への排水が困難となり、冠水がすることが常態化している。また、近年は、大雨時に国交省の排水ポンプを要請している状況であり、冠水被害の低減を図るため、排水ポンプを設置するに至った。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

排水ポンプの設置により、床島地区の冠水被害の低減が図られる。

③現在の取組状況



令和5年度末から工事を開始、令和7年の出水期ごろまでに完成予定

先行排水

様式1-2：流域治水
【力を入れている取組等】

- 実施主体：筑後川下流地域 市町村
- 開始時期：令和5年度頃
- 実施内容：クリークを活用した先行排水の取り組み

①取組を始める経緯、きっかけ

- ・昨今の激甚化する大雨により、家屋や農地が被害を受けており、防災減災の強化を図るため。

②取り組みに対する課題、解決した場合解決方法・きっかけ

- ・降雨予測が難しく、潮の干満や空振時の充水なども考慮する必要があり毎回苦慮している。
- ・近隣7市とともに取り組んでおり、回数を重ねるごとにポイントをつかむことができ、浸水被害軽減につながっている。

③現在の取組状況



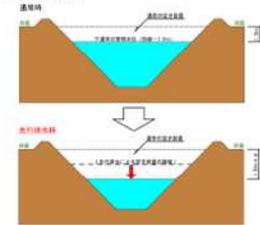
気象庁の早期注意情報で降雨量が100mm以上で、警報級の可能性「中」以上が発令された場合、上下流自治体で連携しながら先行排水を行い浸水被害の軽減を図る。

筑後川下流地域のクリークを活用した先行排水の広域化に取り組んでいます！

筑後川下流地域のクリークは、国策及び県費事業において当初は土木語で整備されましたが、大雨・洪水時に備え、急激に水位を低下させても水害の発生が抑えられないように、防災事業により護岸工事を進めました。
護岸工事が完了した今、石作の被害を拡大する集中的豪雨に伴う浸水被害のため、筑後川下流地域に広がるクリークを活用した【先行排水】の広域化に取り組んでいます。

①先行排水について

大雨の前に、あらかじめクリークの水位を下げて、洪水に対する貯留ポットを確保します。



②水位の回復について

先行排水を実施後、予報通りの降雨がなかった（雨が空振った）場合の水位回復については、水路の下流に位置する地域に水が溜るまで、時間を要することも想定されますので、地元の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

福岡県
大木町

- 実施主体: 広川町、広川町消防団、広川消防署(八女消防本部)
- 開始時期: 平成30年度
- 実施内容: 事前に準備されたシナリオに沿って、発生する事象に対して各組織と情報を共有しながら、その場で対応方法(簡易処置を含めて)を検討・実施して、対応後の報告までを行う。

①取組を始める経緯、きっかけ

突然発生する災害に対して、冷静に適切な対応ができるようにするために、想定訓練を行った

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

伝達手段として、個人の携帯電話等を利用していましたが、IP無線を導入することで、広範囲で容易に連絡が可能となった

③現在の取組状況

毎年、より実践に近い形で実施しているので、災害発生時に訓練をもとにした円滑な対応につながっている。



災害対策本部として対応する様子

- 実施主体:佐賀市（河川砂防課）
- 開始時期:令和5年度
- 実施内容:佐賀城お濠の調整池活用

①取組を始める経緯、きっかけ

R1.8豪雨では、床上床下浸水戸数は約3,400戸に上る大規模な浸水被害が発生した。浸水が広範囲に及ぶ本市では、既存施設をどれだけ有効に活用できるかが浸水被害を軽減していく重要なポイントである。

かねてから、お濠周辺の浸水被害軽減のために大雨時においてお濠を調整池として活用しており、さらなる貯留という観点で取組みを始めた。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

- ・お濠の水が農業用水も兼ねている。
⇒下流域の農業関係者との排水の調整や報告を行い、理解を得て、事前排水が農業用水に影響がないことを試験により確認。
- ・排水口である樋門が1箇所断面が小さいことにより、お濠の水位が落ちづらい。
⇒お濠への流入口を止め、常に排水を行うことで、水位を低く保った。
- ・お濠の水があまり入れ替わらないことで、水質悪化が懸念される。
⇒水質検査を実施。また水質悪化が想定される際は水の入れ替えを行うこととしている。

③現在の取組状況

H28年に起伏堰を設け、この起伏堰等の操作を行うことで、お濠の水位制御を行い、お濠を大雨時の調整池として活用してきた。

さらに、R5から本格的な事前排水により、お濠の水位を大雨が降る前に低下させ、調整容量を増加させている。



現在、北濠において活用に向けた実証試験をし、さらなる取組みを進めている。

- 実施主体:鳥栖市
- 開始時期:令和2年
- 実施内容:大野川護岸整備(護岸嵩上げ)

①取組を始める経緯、きっかけ

大雨時に大野川護岸の越水による周辺の床上・床下浸水被害が発生。令和2年度から大野川護岸住宅側(右岸)の護岸整備を実施中。

②取り組みに対する課題、解決した場合 解決方法・きっかけ

護岸整備と併せて今後においても浚渫等適切な維持管理が必要。

③現在の取組状況 (写真や資料を含め)



西田川排水区雨水整備事業

- 実施主体：鳥栖市
- 開始時期：平成30年
- 実施内容：雨水管渠埋設 L=2.5km
(ボックスカルバート1600×1000外)

①取組を始める経緯、きっかけ

一級県河川西田川上流域である旭地区において、地区内既設水路及び下流域県河川の流下能力不足により、道路冠水が常襲的に発生している。当該箇所は、住宅地の生活道路でもあり、通学路でもあることから早期に取り組む必要があった。

そのため、西田川下流において国・県と一体となり対策を実施している。本市では、交付金を活用しながら水路断面の拡大、既存水路断面を補完する水路の整備を進めている。

②取り組みに対する課題、解決した場合解決方法・きっかけ

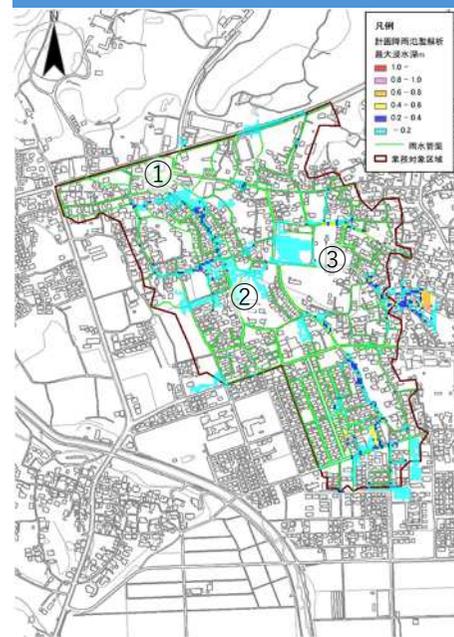
生活道路であり道路幅員が狭い上、上下水道管も布設されていることから、限られたスペースとなり雨水管渠の幅が制限される。

③現在の取組状況

令和6年度 完了予定

- ・ボックスカルバート600～1000×600～900 L=415.5m
- ・管渠400 L=165.1m

計画降雨氾濫解析結果



浸水写真



雨水管渠埋設状況

◎現在も取り組んでおり、未完了だが、沿線住民より浸水が早く引くようになったとのことをお声をいただいております。浸水軽減効果が見受けられる。

○実施主体:神崎市
○開始時期:令和3年度 ※体制強化による取組開始時期
○実施内容:クリークの事前排水

①取組を始める経緯、きっかけ

神崎市内の下流域では、近年の気候変動等に
伴う頻発化かつ激甚化した豪雨の影響により、
平成30年以降毎年のように湛水被害に見舞
われているため、令和3年度より、関係機関
および地元関係者との体制強化を図りながら
事前排水の取組を強力に進めている。

**②取り組みに対する課題、解決した場合解決方
法・きっかけ**

- ・取組に必要な経費および操作員の負担の増加
- ・クリーク法面崩落のリスク

→国営総合農地防災事業によるブロックマット施工
緊急自然災害防止対策事業債等を活用した崩
落個所の早期復旧

- ・空降時の早急な充水

→事前排水後の充水にかかる体制整備の早期運
用に向けた国への要望

③現在の取組状況

・クリークの事前排水

大雨の前にクリークの水を主幹河川に放流し、クリークの水位
を低下させることで、貯留ポケットを確保しています。

■事前排水により 約191万^mの貯留が可能



The diagram on the left shows a cross-section of a creek with several levels: '大雨時の水位(湛水位)' (Water level during heavy rain), '一時貯留ポケット' (Temporary storage pocket), '通常水位(管理水位)' (Normal water level), '事前放流ポケット' (Pre-release pocket), and '筑後川' (Kikugawa). The aerial view on the right shows the creek flowing through a residential area with green fields.

クリークの事前排水イメージ

- ・市内にクリークが多く存在し、幹線水路は全長44km
- ※幹線水路は基本南北の8本（三田川線、千代田線、諸富線、浮島線、曾根線、詫田線、徳富線、大堂線）
- ※支線（東西）は地区で水門管理

★現在も継続して実施

- 実施主体:神崎市
- 開始時期:令和4年度
- 実施内容:田んぼダム

①取組を始める経緯、きっかけ

令和元年および令和3年の記録的な豪雨により、市南部地域において内水氾濫による甚大な浸水被害が発生したことを受け、今後も見込まれる甚大な浸水被害の軽減を図るため、地域の方々の協力により取組を行っている。

②取り組みに対する課題、解決した場合解決方法・きっかけ

- ・田んぼダムの更なる推進に向けた取組が必要
- ・田んぼダムにより発生する畦畔の崩落
- ・田んぼダム協力金の継続

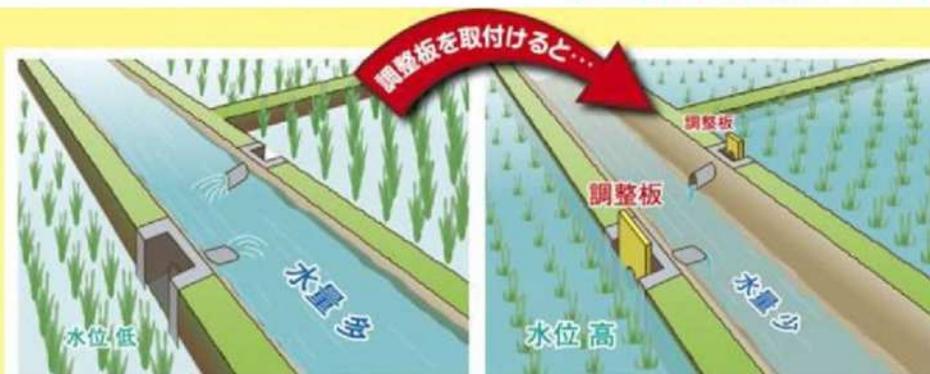
③現在の取組状況

・田んぼダム

田んぼの排水口に切り欠きを開けた調整板を設置し、大雨時の水の流出を抑制することで、田んぼが『ダム』の役割を果たします。

■令和5年度 田んぼダム取組み実績

神崎市:約683ha **約68.3万m³を貯留**



★現在も継続して実施

洪水危険度の更なる見える化

○実施主体：大分県

○開始時期：R6～R8

○実施内容：河川水位上昇時の住民の早期避難を促すため、量水標および避難目安の水位ラインを設置し、洪水危険度の更なる見える化を行い危機管理意識の醸成を図る

①取組を始める経緯、きっかけ

- ◆気候変更の影響に伴い頻発化・激甚化する豪雨災害
- ◆R5災害で18河川で氾濫が発生し5基の水位計が欠測

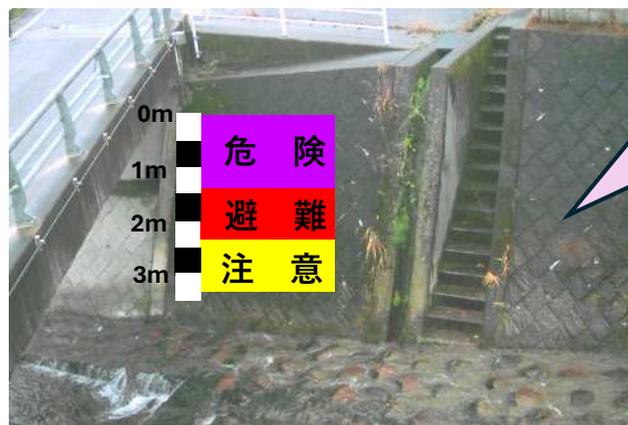
②取組状況

●浸水被害により重大な被害を生じる恐れがある河川に視覚効果の高い量水標を設置

設置イメージ（監視カメラ映像）



【現状】



【設置後】

- 水位計故障時も監視カメラや目視で水位の確認が可能
- 周辺住民の危機意識の醸成

【設置箇所】

河川監視カメラを設置している11か所（筑後川水系）

わかりやすい河川情報の提供により、県民の危機管理意識を醸成、水災害からの回避を図る

- 実施主体: 大分県
- 開始時期: R4~R13
- 実施内容: 狭小な河川の掘削・拡幅やネックとなる橋梁などの構造物改築による計画的な河川整備を図ることにより流下能力を確保し、再度災害の防止・軽減を図る

①取組を始める経緯、きっかけ

日田市天ヶ瀬温泉街を貫流する玖珠川において、令和2年7月豪雨（時間最大59mm/h）により家屋浸水や橋梁の流出等甚大な被害が発生

- ・家屋浸水125戸(床上99戸、床下26戸)
- ・橋梁流出 新天瀬橋(市道)、成天閣吊橋(私道)



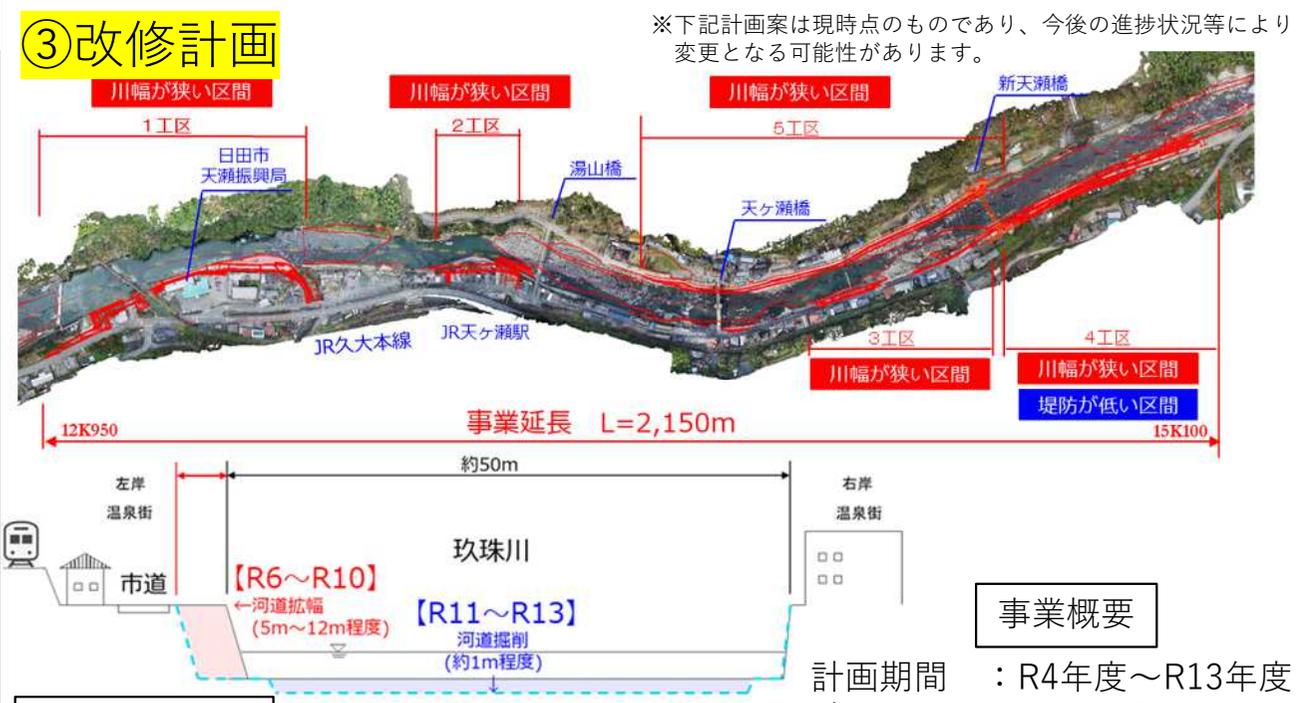
天ヶ瀬温泉街



新天瀬橋

②取り組みに対する課題

天ヶ瀬温泉街を形成する旅館等建築物や道路、泉源への影響を最小限とする必要がある

- ### 河川改修の手順
- 【ステップ1】 (概ね4年後まで)
堤防が低い区間 嵩上げ工事を優先的に実施⇒頻度の高い出水に対して浸水を防ぐ
 - 【ステップ2】 (概ね7年後まで)
川幅が狭い区間 原則下流から河道拡幅等を実施⇒目標流量の約9割
 - 【ステップ3】 (概ね10年後まで)
河道掘削 (R11~R13)の実施⇒目標流量を確保 (河川改修を完了)